



利尻島固有種

**リシリヒナゲシ**  
利尻雛芥子(ケシ科)7月~8月、8合目以上で見られる。利尻島の固有種でケ属では日本で唯一の自生種。



利尻島固有種

**リシリアザミ**  
利尻薊(キク科)8月中旬~9月、島内の南東部の海浜や湖沼に咲く。1996年に写真家梅沢俊氏により発見された。花が上を向いて咲くのが特徴。

# 利尻の花ごよみ

風景に花を添える利尻島の花たち



利尻島固有種

**ボタンキンバイ**  
牡丹金梅(キンボウゲ科)7月上旬~8月上旬、9合目以上で見られる。植物学者牧野富太郎により命名。チシマノキンバイソウの仲間でおレンジ色のかく片がボタン咲きとなる。



利尻島固有種

**リシリハタザオ**  
利尻旗竿(アブラナ科)2007年に新種として発表された。



## 利尻で最初に命名された種



**リシリリンドウ**  
利尻竜胆(リンドウ科)7月中旬~8月下旬、山頂部で見られる。北海道本島の中央高地や夕張岳にも分布。牧野により発表された。



**リシリブシ**  
利尻附子(キンボウゲ科)8月、8合目以上で見られる。利尻礼文両島、サハリン南部に分布するトリカブトの一種。



**リシリゲンゲ**  
利尻蓮華(マメ科)6月下旬~8月、山頂部で見られる。タカネオウギとも呼ばれ大雪山、夕張岳にも分布。



**リシリトウチソウ**  
利尻唐打草(バラ科)7月~8月、山頂部で見られる。タカネトウチソウの変種で、北海道本島の中央高地にも分布。



**リシリオウギ**  
利尻黄耆(マメ科)7月中旬~8月上旬、山頂部で見られる。大雪山系や本州の高地にも分布。



**エゾコザクラ**  
蝦夷小桜(サクラソウ科)7月、山頂部で見られる。群生しリシリコザクラとも呼ばれる。北海道の各山系に咲く固有種。



**ミヤマオグルマ**  
深山小車(キク科)7月~8月、8合目以上で見られる。



**ミヤマオダマキ**  
深山宇環(キンボウゲ科)8月、山頂部で見られる。北海道と本州中部以北にも分布。



**リシリビヤクシン**  
利尻柏楨(ヒノキ科)6月~7月。常緑の低木で北海道に分布。

## 館内のご案内

### 利尻の自然と生き物

島に生きる豊かな森や海の生き物、高山植物のジオラマを展示しています。当館裏の高山植物園にもぜひお立ち寄りください。

### リシリのころ

「リイシリ」と呼ばれていた近世の資料をもとに、アイヌの人びとの生活様式や会津藩士・マクドナルドについて解説しています。

### 利尻の近代

明治時代以降の行政資料をはじめ、人物や航路、教育関係、生活民具を展示しています。

### ニシンの恵みと栄華

ニシン漁で使われた番屋や漁場のジオラマ、漁具や写真のほか、島の水産業に関する資料を展示しています。

## ご利用案内

開館期間/5月1日~10月31日 9:00~17:00

休館日/毎週火曜日(祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日  
\*7~8月中は無休です。

入館料/一般(高校生以上)…200円(団体160円)  
中学生・身障者……………100円(団体60円)  
小学生……………50円(団体30円)  
\*団体は30名様以上です。

## お問い合わせ

### 利尻島郷土資料館

〒097-0211  
利尻富士町鬼脇字鬼脇  
TEL0163-83-1620

### 利尻富士町立鬼脇公民館

TEL0163-83-1321  
FAX0163-83-1320

### 利尻富士町教育委員会

〒097-0101  
利尻富士町鴛泊字富士野6  
TEL0163-82-1370  
FAX0163-82-2376  
E-mail:kyoui-shakyo@town.rishirifuji.hokkaido.jp

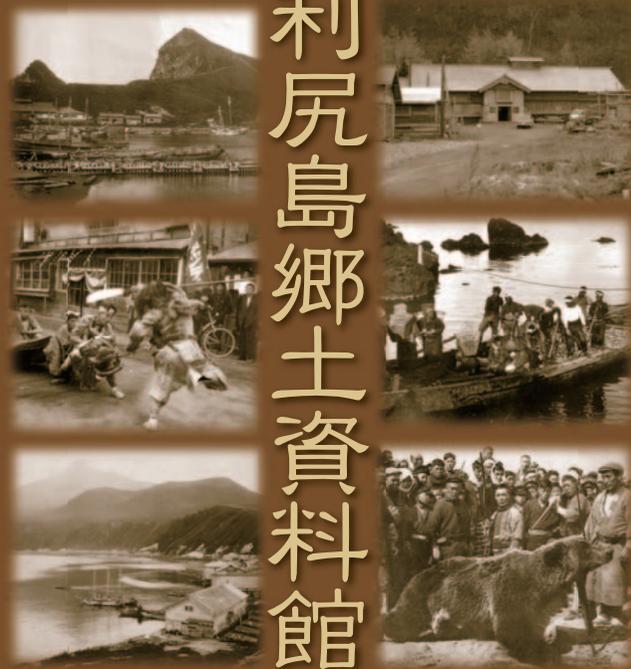


利尻の原始・古代の遺跡出土品については、りっぶ館(鴛泊字栄町 TEL0163-82-1721)に展示中です。

## 利尻礼文サロベツ国立公園



# 利尻島郷土資料館



# 利尻島のあゆみ



年代	北海道時代区分	利尻島のできごと
170万		5期にわたる火山活動の開始
10万	旧石器	ベン岬・鷺泊ボン山などの形成
3万~2万		オタマリ沼(沼浦マール)の形成 北海道と陸続きになる 旧石器人が住み始める(栄町キャンプ場遺跡)
1万3000 1万		火山活動の終焉
6,000 4,000 2,500 1,500	縄文	早期前期中期後期晩期 縄文人が住み始める 対馬海流が道北部まで到達する 円筒形土器が使われる 島内各所にこの頃の遺跡が分布
1,000 紀元前	続縄文	オホーツク サハリンから鈴谷式土器が伝播 オホーツク文化人が生活する 骨や牙を利用した彫刻文化の隆盛 貝塚が多くつくられる
700	擦文	本州の律令社会の影響を受ける
800		
1200	アイヌ	アイヌが生活する
1600		レイシリ場所が設置される 1644 蝦夷地図に利尻の記録 1670 津軽一統志にアイヌ人の記録 1696 朝鮮人李志恒ら漂着 1765頃 運上屋が本泊に置かれる 1807 ロシア人の来襲 1808 会津藩士の警備 間宮林蔵来島し登山する 1846 松浦武四郎来島 1848 ラナルド・マクドナルド来島
1868		明治 1876 利尻抜所設置 1880 利尻郡各村戸長役場設置 1886 利尻小学校開校 ニシン・タラバガニ豊漁
1925		昭和 1957 各村合併し 利尻町と東利尻村(のちに町)になる 1964 杏形大火 1965 国定公園に指定される 1974 国立公園に指定される 1990 東利尻町から利尻富士町へ町名変更
1989		平成

RISHIRI

# 利尻島郷土資料館へようこそ！

当館は、大正2年に建設された旧鬼脇村役場庁舎を再利用した歴史的建造物です。  
小さな建物ですが、建設から100年を過ぎてもなお、まちの歴史を伝える施設として親しまれています。



利尻山と溶岩ドーム群

利尻山は、およそ170万年前から始まった5期にわたる活発な火山活動により形成されてきました。その過程で、中心部の山体に限らず、側火山である鷺泊ボン山・ベン岬(溶岩ドーム)や仙法志・鬼脇ボン山(スコリア丘)のほか、沼浦・南浜湿原ではマールと呼ばれるマグマ水蒸気爆発によるリング状の地形なども形づくられました。海岸には、杏形溶岩(富士岬〜杏形)や溶岩流(金崎〜仙法志)の痕跡が顕著です。

## ■ 利尻島のおいたち

利尻山は、およそ170万年前から始まった5期にわたる活発な火山活動により形成されてきました。その過程で、中心部の山体に限らず、側火山である鷺泊ボン山・ベン岬(溶岩ドーム)や仙法志・鬼脇ボン山(スコリア丘)のほか、沼浦・南浜湿原ではマールと呼ばれるマグマ水蒸気爆発によるリング状の地形なども形づくられました。海岸には、杏形溶岩(富士岬〜杏形)や溶岩流(金崎〜仙法志)の痕跡が顕著です。



## ■ 古代文化の形成

利尻島最初のヒトの居住は、今から1万3000年前の旧石器時代にさかのぼります。この時期は、海水面が今よりも低い氷期にあたり、サハリンと北海道が陸地でつながっていたことから、ヒトや動物の行き来が盛んでした。サハリンからも見える利尻山は、恰好の道しるべだったのでしょう。さらに、島内には日本海の対馬海流を通じ道南と本州との交流を生んだ縄文文化や続縄文文化、サハリンとの関係をもつスヤ文化、オホーツク文化期の遺跡が数多く点在しています。



竪穴住居跡(利尻富士町役場遺跡)

## ■ リイシリのころ

北海道が蝦夷地と呼ばれていた江戸時代、島にはアイヌの人びとが住み、1644【正保元】年の絵図に記載があるとおり「リイシリ(高い山のある島)」と呼ばれていました。1670【寛文10】年の「津軽一統志」には、和人とアイヌとの間で交易をしていた様子が書かれています。その拠点には、現在の本泊にあり、1765【明和2】年には運上屋が置かれ、交易品としてアワビやナマコ、クラ、ニシンなどが取引されました。



会津藩士の墓

1807【文化4】年、鎖国下の日本に対して通商を強く求めていたロシアによる利尻島の襲撃事件が起きると、幕府は会津藩に松前、宗谷、利尻、樺太の防備を命じました。島内には、警備に伴い命を落した藩士らの墓碑がベン岬と本泊、種富町に残されています。

また、著名な探検家である間宮林蔵や松浦武四郎が訪れているほか、1834【天保5】年には測量師であった今井八九郎による精巧な地図も製作されました。

## ■ ラナルド・マクドナルド



ペリー来航の5年前にあたる1848【嘉永元】年、野塚にアメリカ人、ラナルド・マクドナルドという青年が上陸しました。その目的は、鎖国下にあった日本で日本語を覚え、開国後に通訳になることで、ハワイから捕鯨船に乗り、単身日本へ入国することを試みた末、遭難者を装って利尻島に上陸しました。しかし、島での滞在期間は短くひと月ほどで長崎へ移送されました。長崎では、日本を去るまでの7ヶ月間、森山栄之助(ペリー来航の際の通訳)らに英語を教え、自らも日本語を学ぶなど、人間性豊かな面を持ち合わせていたようです。



ラナルド・マクドナルド

## ■ ニシン漁と近代化

幕末の安政期、出稼ぎ漁民が進出し、1869【明治2】年には場所請負制度が廃止になったため、おもに青森や秋田、新潟、鳥取、福井などの地域からニシンの豊漁を夢見る移住者が激増し、それぞれ集落を形成しました。



庚申碑

太平山三吉神社碑

ニシンは昭和28年頃に境に獲れなくなるまで、好不漁をくり返しながら、最盛期で年間10万tを水揚げすることもありました。往時には、市街地に旅館や料理屋、劇場などが立ち並ぶなど大いに賑わい、毎年春になると青森を中心に若い衆(ヤン衆)が大挙して働きにやって来たといえます。

こうした人と物資の流通の要として、1885【明治18】年、道内一の商都であった小樽との航路が開設され、大正時代までには定期航路として確立し、各村への寄港が実現しました。一方で、昭和に入り鉄道の敷設により稚内が交通の拠点となると、1936【昭和11】年に稚内利礼航路が開設されました。

移住者により持ち込まれた習俗やことばなど地域性が薄れつつある現在でも、庚申信仰や太平山三吉信仰などの各種信仰に関わる石碑や神社に奉納された絵馬、民俗芸能では富山や鳥取の移住者による獅子神楽などが残されています。

## ■ 高山植物と野鳥の楽園

利尻島には、離島であることと緯度が高いことから、固有な種や高山植物が多く生息しています。また、海拔0mから亜高山帯に属するため、本州では標高2000mでしかみられない植物が、ここでは標高1000mから山頂(1721m)にかけて自生しています。



コマドリ

そのため、明治時代から植物学者らによる採集や調査が行われ、名前の頭に「リシリ」のつく植物も見受けられます。松野力蔵氏による調査では、利尻島で655種の植物が確認されています。

また、エゾマツやトドマツ、ダケカンバなどの原生林や湿原では、ノゴマやコマドリ、クマゲラをはじめとするたくさんの野鳥の鳴き声のハーモニーを聞くことができます。



## 利尻の植生分布

